

さいたま市長 2月定例記者会見

平成23年2月16日(水曜日)

午後1時31分開会

○ 進 行 それでは、記者クラブの皆様、定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

記者クラブ幹事社の朝日新聞さん、進行のほうよろしくお願ひいたします。

○ 朝日新聞 2月の幹事社を務めます朝日新聞といたします。よろしくお願ひいたします。

それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長からご説明お願ひします。

○ 市 長 まず、議題に入る前に市民の皆様へ一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

あちらこちらで梅の花が目につく季節になりました。市内随一の梅の名所と言えば、大宮第二公園でございますが、ちょうど今月末の28日まで梅まつりが開催されております。公園内には40種、500本もの梅の木があるそうです。祭り期間中はお茶会やコンサートなども開催され、一足早く春らしい華やいだ雰囲気を楽しめます。市内にも余り目立ちませんが、こうしたところがたくさんございます。市民の皆様には、ぜひ足を運んでいただき、さいたま市の身近な魅力を再発見していただきたいというふうに思います。

市長発表

議題1：子宮頸がん予防ワクチン等の接種費用助成開始について

それでは、議題の説明に移らせていただきます。本日の議題は2件でございます。

はじめに、「子宮頸がん予防ワクチン等の接種費用助成開始について」ご説明をいたします。

当該事業につきましては、国の子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時交付金として、市町村が行う接種費用助成事業への補助金が盛り込まれました平成22年度補正予算が成立したことを受けて実施をさせていただきます。

ものであります。

開始に当たりましては、第1に、国がこれらのワクチンを広く地域で接種することに、有効性と安全性を認めたこと。第2に、国として、これらのワクチンの安定供給にめどが立ち、公平性が担保されていること。第3に、国の平成22年度補正予算に盛り込まれているため、本市としても可及的速やかな対応を図り年度内の実施を目指すべき、と3つの点から判断をいたしました。

助成事業の財源は、国の補助金と本市の一般財源で、平成23年2月定例議会に、平成22年度3月に実施する分の補正予算及び来年度実施分の平成23年度当初予算を上程をいたしました。このうち、補正予算については、市議会において先議として検討いただき、2月8日の本会議において可決をされました。これを受けて、3月1日からの接種費用助成開始に向け、所管課に関係各所との調整を急がせているところでございます。

予算額ですが、平成22年度分が約3億8,000万円、これからご審議いただく平成23年度予算には約2億5,000万円を計上しております。

なお、国の助成は、平成23年度限りの措置とされており、平成24年度以降につきましては未定でございます。この点につきましては、従来から繰り返しております、予防接種行政は国策として、財政面を含め国の責任で取り組んでいただきたいとの要望を今後とも続けてまいりたいと考えております。

接種費用の助成を行うワクチンと助成対象者は、お手元に配付した資料のとおりであります。これらのワクチンは、効果や限界を理解し、接種を希望する方が受ける任意接種であります。

なお、子宮頸がん予防ワクチンの助成対象についてですが、平成22年度は国が標準として示す、中学1年生から高校1年生に相当する年齢といたします。ただし、平成23年度につきましては平成22年度の高校1年生に対する助成期間が1カ月ということで短くなっておりますので、経過措置として23年度に限り高校2年生に相当する年齢まで実施をする予定で予算案を計上しております。

これらにつきまして、3月1日以降に受ける接種に際して、自己負担を

求めません。しかし、2月28日以前に、自費での接種を受けた方については、その費用を補助することはできないことになってございます。

接種方法ですが、さいたま市医師会に加盟した本事業に関して、医学的、技術的、制度的にご理解をいただきました医療機関での個別接種となります。実施医療機関につきましては、準備ができ次第、市のホームページ内、保健所の予防接種のコンテンツで公表してまいります。また、対象者には、順次郵送でご案内する予定であります。

対象者数であります。助成対象者数は子宮頸がん予防ワクチンが平成22年度分が約2万4,000名、平成23年度分が約3万名、ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンが約6万3,000名とそれぞれ見積もっております。

議題1については以上でございます。

議題2：さいたま市観光標語（観光キャッチフレーズ）を決定しました

続きまして、議題2、「さいたま市観光標語（観光キャッチフレーズ）を決定しました」についてご説明をいたします。

さいたま市では、今後の観光政策に活用していくため、さいたま市に行ってみたくなるような、また、さいたま市の観光の魅力を伝えられる観光標語を、昨年の12月から今年1月にかけて、市内在住、在勤、在学の方から募集をいたしましたところ、192作品の応募があり、選考の結果、こちらの標語に決定をいたしました。

「おいでよ さいたま 新発見！！」。作者は見沼区在住の中学生、熊倉桃花さんであります。覚えやすく、わかりやすいということと、さまざまな観光資源のある本市は、来るたびに新たな発見にめぐり会えるので、来てほしいという思いが、本市を訪れたことのある人にもない人にもアピールできることなどを評価をいたしました。

今後、市やさいたま観光コンベンションビューローが発行する観光パンフレットやポスター、ホームページ等で使用していくほか、イベントや観光PRキャンペーン等でも使用して市内外への浸透を図るとともに、さいたま市の観光振興に役立ててまいりたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

関連質問

- 朝日新聞 市長からの説明について質問をお願いします。
- 済みません、幹事社から1つさせてください。今回標語上、「おいでよさいたま 新発見！！」と発表されたんですけど、市長ご自身は今回の標語でさいたま市内の、まずどの辺、どの観光地というかですね、観光をPRしたいというふうに重点的に思われていますか。
- 市長 さいたま市には、いろいろ個性的な文化が、たくさんあって、1つは盆栽であったり、あるいはスポーツであったりですね、あるいはユーモア、漫画ということであったり、ウナギということであったり、かなりほかとちょっと違う文化を持っておりますので、あと見沼田圃であったりですね、そういう文化をぜひいろんな人たちに見ていただいて、そして良さをね、体験してもらいたい。市内の方々でもなかなかまだ知らない。漫画についても漫画会館行ったことがないとかですね、そういった方々もたくさんいらっしゃると思いますので、そういう場所にぜひお越しをいただいて、さいたま市の魅力をですね、改めて感じていただければなと思っております。あと、人形も。人形忘れちゃいけないな。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
- こういう観光キャッチフレーズは初めてなんでしょうか。
- 市長 そう、初めてですね、はい。
- 朝日新聞 済みません。あと、これはやっぱりこの10周年記念とリンクさせてやっていくということなんでしょうか。
- 市長 そうですね、ちょうど来年度4月以降10周年というような部分もありますので、それらとも連動させて一緒にPRをしていきたいと思っておりますし、また10周年記念ですので、市外からもね、たくさんのいろんな人が来ていただければうれしいなと思います。

幹事社質問

議会改革の動きについて

子ども手当を巡る発言について

- 朝日新聞 それでは幹事社から代表質問させていただきます。
- 今議会冒頭でですね、市長自ら代表されている埼玉改援隊の議会改革に関するマニフェストの撤回決議がありまして、昨日なんですけど、各会派が

ら議員報酬、政務調査費の減額と定数の削減をうたった条例改正案、特例条例案の議論がされてですね、報酬と調査費に関しては可決されたんですが、定数削減については否決されました。議会自ら自分たちで改革やるということで、マニフェストに対して撤回をされた、決議を出されたんですが、この辺については市長、どういうふうにお考えになっているんでしょうか。

○ 市長 そうですね、昨日報酬とか調査費とか、あるいは議員定数の削減等について条例案の改正案が出されてね、いろいろ議会の中でご審議をいただいて、自ら積極的にいろいろ議会改革を進めていこうという、そういう姿勢は大変すばらしいと思いますし、大いに歓迎をしたいと思いますね。

また、いずれのご提案者もですね、今回のやつは、その第一歩だというようなことで述べられておりますので、今後も市民から見えるように、さらなる議会改革等について議員自ら議論されていられることについては大いに期待をしたいと思います。

○ 朝日新聞 2番目いきます。子ども手当なんですけども、さいたま市として来年度の子ども手当、市負担分はすべて国費でということで予算をつくられたと思うんですが、その後、上田知事がですね県の、国に変わってやる事務作業はやらないっておっしゃったりですね、あと県から選出されている枝野官房長官もですね、衆議院予算委員会で全額国費でやったほうがいいんじゃないかということがありました。そういう動きについて、市長、どういうふうにお考えになっているでしょうか。

○ 市長 今子ども手当についてのご質問にお答えをしたいと思いますけど、上田清司埼玉県知事の子ども手当事務の見合わせの方針につきましては、11月に行われました九都県市首脳会議の決議を踏まえて、国に対する抗議の意思を示したものであるというふうに理解をしております。

交付金申請などのやりとりにつきましては、相手先が県から国に置き換わったということでありますので、本市としては実務上は大きな影響はないだろうというふうに考えておりますし、さいたま市におきましては平成23年度の予算案におきまして、子ども手当に係る歳入予算の地方負担を拒否し、全額国費を求めると強い意思を示したところでありますけども、今後とも上田知事あるいはほかの政令指定都市の方々等々ですね、連携

をして、国に対してこの子ども手当についてはですね、全額国保ということ
と働きかけていきたいと思います。

また、枝野幸男官房長官、7日の日ですか、衆議院予算委員会で子ども
手当について全額国費でやる方向に持っていくのが望ましいと、できるだ
け近い将来に地方負担がないような形にすべく努力したいというふうな発
言をされたと伺っております。この発言は、私たち地方のね、意見を真摯
に受けとめてくれて、そういった方向性を、発言をしてくれたということ
では、大変大いに評価をしたいと思いますし、やはりこれまでも市民目線
で活動されてきた枝野官房長官らしいですね、発言であったというふうに
私自身は大いに歓迎をしたいというふうに思っています。

ただ、一方、平成23年度の子ども手当の財源につきましては、地方負
担を前提としたものにまだなっているということ、また枝野長官の発言の
翌日には細川厚生労働大臣が平成24年度以降の子ども手当について、扶
養控除の廃止に伴う地方の増収分を子ども手当や子育て支援に充ててもら
いたいと別の考え方を示していることなどもあって、それらのことについ
ては大変遺憾に思っております。

いずれにしても、引き続き指定都市市長会等とも連携をして、国に対し
て子ども手当に係る経費を全額国費とすることを求めてまいりたいという
ふうに思います。特に制度改正の影響を多大に受ける指定都市の市長と関
係閣僚との協議の場の実現に向けて行動してまいりたいというふうに思い
ます。

以上です。

○ 朝日新聞 どうもありがとうございます。

各社、質問をお願いします。

その他

新都心8-1A街区について

○ 東京新聞 8-1A街区についてお伺いしたいんですが、先週ですね、一部報道で、
さいたま市とともに事業主体となっていました県のほうで企業側と和解案
がまとまりつつあって、2月議会に和解議案を提出する方向であるという
報道がなされました。市のほうとしては、今どういう段階にあるのかとい
うことと、ちょっとサッカープラザ云々で市側のせいと言うと変ですけ

ど、ちょっと事業が遅れたというのもあるので、和解協議が進んでいるのであれば、市がお金をもらえる側であるのか、むしろ何か損害賠償求められるんじゃないかという危惧も当初出ていたと思うんですが、今はどういう段階にあって、市長としてはいつごろまでにまとめたいとかいうのがもしあれば、教えていただきたいと思います。

- 市長 事業終了に伴う和解につきましては、現在、県、市それぞれが民間事業者と対応を協議しているところでございます。当然民間事業者の都合によってですね、事業が終了されたということでもありますので、当然市側も相応の損害賠償を求めていくということを前提に協議を進めさせていただいております。

今後につきましては、相手もあることですので、できるだけ速やかに協議は進めていきたいというふうに思っておりますけども。県のほうでも、和解協議が進んできているということもありますので、そういった状況なども踏まえながらね、進めていきたいというふうに思っています。

- 東京新聞 例えば今議会中に出てくるとか、そういうのはちょっとお考えではないんですか。

- 市長 そうですね、スケジュール的にちょっと厳しいだろうと。県のほうは、まだ3月の中旬ぐらいまででございますけど、さいたま市のほうは3月4日で終了ですので、まだ協議がね、やっている最中でございますので、ちょっと2月は難しいかなというふうに思っています。

来年度のさいたまシティカップについて

- 朝日新聞 済みません、朝日新聞です。

今週末ですね、さいたまシティカップが開かれます。この前、会見があったように、浦和レッズと、あと大宮アルディージャが対戦されるんですけども、そのときに市長が、2年に1回は従来どおり海外のクラブチームと対戦するというお話があったと思うんですが、逆に来年度は、海外のクラブチームを呼んでやっていかれるという予定というか、方針は変わりないということですか。

- 市長 そうですね、今のところ、前回の記者会見で申し上げましたけれども、できれば2年に1回は海外チームを誘致して、それで子供たちに海外の一流のプレーヤーの生の姿を見せたいという思いはございますので、現時点

ではまだ、1つは予算案についても今協議を進めているところでもございますし、そういったものを踏まえてということになりますけれども、そういう方向性で考えていますが。

- 朝日新聞 開催時期についてもですね、今年度と昨年度は2月開催だったんですが、従来、韓国を除いた海外チーム呼んだ場合は6月、7月という夏だったんですが、来年度も、海外のクラブチームを呼んで、やっぱり6月、7月ぐらいにやりたいというふうな。
- 市長 その辺の時期等については、まだこれから調整ということになりますので、まだちょっと今のところは何とも。
- 朝日新聞 時期については未定と。
- 市長 ええ、お話ができる段階ではありません。
- 朝日新聞 そうですか。ありがとうございます。

埼玉改援隊について

- 埼玉新聞 済みません、埼玉改援隊の関係なんですけれども、2月1日の議会で改援隊のマニフェストの議員定数と議員報酬の削減の項目について、公約を撤回する決議が出ましたが、3月4日あるいは5日の議会末までの期限だとは思いますが、現時点では今後公約撤回についてどのようにお考えでしょうか。
- 市長 先般申し上げたとおりですね、個人的にはですね、やはり政治団体のマニフェストでありますので、政治信条であるとかですね、思想信条の自由であるとかですね、そういったものとかかわってくる部分もございますので、基本的には変えていくつもりはございませんけれども、組織ということ、政治団体ということで、私以外にも構成員の首長さんたち等おりますのでね、その辺はきちっと相談をした上で最終的に決定をし、ご報告を申し上げたいというふうに思いますけど。
- 埼玉新聞 昨日の本会議でですね、定数削減については否決されましたが、政務調査費と議員報酬については削減というのが可決されました。この昨日のことを踏まえまして、改めて公約をどうするかというお考えに影響とかはあるんでしょうか。
- 市長 まだ改援隊としてはこれから議論しますけれども、個人的には、先ほど申し上げましたとおり、ご提案者の方はね、これが始まりであるというよ

うなことを申して議案説明をされていたと思うんですね。ですから、大いにこれからも議論をしていただけるということだろうと思っていますけども。ですから、その変える必要性ということへの影響は余りないように感じていますけど。

大相撲の浦和巡業について

- 埼玉新聞 大相撲の八百長問題で浦和巡業が中止になりましたけれども、その代替というのは今のところどのようなことを検討されているのでしょうか。
- 市長 今のところは、まだ検討、つい先日のお話でありましたので、まだそれに代わってということについては、まだ検討がなされていません。
- 埼玉新聞 こちらは、予算措置等はされているのでしょうか。
- 事務局 福祉施設等の訪問に対しまして、力士さんへの報償、謝礼ですね。それを予算措置しておりました。
- 埼玉新聞 もし代替のものをやるとして、新たにお金がかかるとしたら、その予算というのは補正予算等で、また組んでいくというお考えでいいのでしょうか。
- 市長 そうですね。またその時にちょっと検討していくしかないだろうと思いますけど。

愛称「きずなひろば」について

- 産経新聞 産経新聞ですけど、昨日出ました「きずなひろば」のことをちょっと、幾つかお伺いします。

昨日の決議があんなふうになりましたけども、議会のあそこにどんな気持ちで座っていらっしゃったのかをお聞きします、まず。
- 市長 どんな気持ち、そうですね。決議文を読ませていただきましたけども、1つは質問等でも出てきましたけどね、「絆」という言葉自体はね、もちろん私もいろいろ「絆」という言葉を言ったり、使ったりはしていますが、基本的には今広くね、一般に使われている言葉で、私のキャッチフレーズとかの言葉ということではないというふうに思っていて、むしろ今の時代がですね、求めている、あるいは地域が今必要としている、そんな言葉ですから、使われる頻度も非常に高いんじゃないかなというふうに思っています。ちょっと、時間があるときにグーグルで検索しましたらね、「絆」という漢字で検索しますと1,510万件、それから平仮名の「き

ずな」では121万件ひっかかってくるんです。それで、さいたま市内をいろいろ行事とか会合の関係で回りますとね、さいたま市内だけでも衆議院のね、自民党の方のポスターにも「絆」という言葉が使われています。また、さいたま市の北区、あるいは見沼区の自民党の県会議員の方も、この「絆」という言葉が使われているんですね。それから、平成19年の6月からスタートしました、これ内閣府でやっているキャンペーンですけどね、「家族・地域のきずなを再生する運動」というのが、これ国を挙げてやっていて、この当時当然政権は自民党政権、上川陽子少子化特命大臣のときなんですね。それから、埼玉県教育プランもですね「生きる力と絆の埼玉教育プラン」と。これ私だけが使っている言葉ではないというふうな印象を持って、それだけ普遍性のある言葉だ、重要な言葉だということなのに、どうしてかなという、ちょっとそんな思いもありました。

また、今回のこの多目的広場ですね、これ維持管理要綱(会見後訂正「管理運営要綱」)だったですかね、要綱の第1条にもですね、その目的にも市民の体力の向上及びスポーツの振興を図るとともに、市民の絆を深めることを目的とするとなっているんです。これは、「きずなひろば」というのはあくまでも愛称ですから、これは検討委員会の中でも名前を検討していただいて、6つぐらい案出てきたんですけど、これは今、お父さんと例えば子供がね、キャッチボールをやろうと思っても、やれる場所がですね、公園では今できないんですよ、多くは。そういった、ただスポーツをやる、そういった場所を提供するというだけではなくて、親と子の絆を深めてもらう、あるいは高齢者の皆さんグラウンドゴルフ盛んにやられていますけども、今無縁社会というふうに言われている中でね、高齢者の皆さん、1人で生活をされている部分がたくさんあるわけですけども、そういったグラウンドゴルフだとかゲートボールだとか、その広場の中で地域の絆を深めてもらいたい、そういう願いだとかですね、思いが込められて、その検討委員会の中から上がってきたお名前なんですね。ですから、そういうお名前がですね、私のちょっと政治の部分で言っていたり、あるいは行政の中でも使わせていただいていますけども、そういったことと言われるということについては、やっぱりちょっと残念だなという、そんな思いをね、非常に強く持ちましたね。ただ、議会の議決ということですから、

真摯に受けとめて、いろんな総合的な観点から、これは考えていくことが必要だろうと思っていますから、その中で判断をしていこうと思います。

- 産経新聞 撤回はしませんね。
- 市長 ですから、総合的な視点から考えていくということですね。
- 産経新聞 それは、どういう意味ですか。撤回はしませんか。
- 市長 撤回する、しないではなくて、私自身はそういった思いがありますので、私自身はというか、行政はですね、執行権というものもありますので、そういったものの関係だとか、あるいは一方で議会からね、こういった決議という形で出てきましたので、そういったことなども踏まえて、今予算案、まさにこの事業そのものについても、やるのかやらないのかということも含めて検討している最中ですので、そういったことなども踏まえた上で検討していくということです。
- 産経新聞 前回、改援隊のマニフェストについて何か決議が出たときは、個人的には撤回しないとおっしゃったけども、この件については個人的にはどう思うのでしょうか。
- 市長 ですから、個人的には今申し上げたとおりですね、大変残念な印象を持っているということですね。
- 産経新聞 こだわりたい気持ちがある、この言葉に。
- 市長 そうですね。要するに私の政治姿勢とかということではなくて、そういう「絆」という言葉が、私だけの言葉じゃないわけですよ。ですから、そういう決議文になっていましたので、それについてはちょっと違和感があるというふうな思いは持っています。
- 産経新聞 ただ、やっぱりさいたま市に来て、市長の回りにそういう「絆」という言葉があふれているなという感じはしたので、私も市長のキャッチフレーズなのかなというふうな印象があったのですが、市長が、この「きずなひろば」は別にして、その「絆」という言葉を使うときに、何か市長好きな言葉なんですか、これは。
- 市長 そうです。今非常に大切な、重要な言葉だと思っているんですね。というのは、今さいたま市は特に都市化が進んでいて、非常に人間関係、あるいはコミュニティが希薄化をしていて、それをどういうふうに再生するかというのが、さいたま市のまちづくりにとって大変大きな、重要な私はキ

ーワードだと思っております。ですから、去年夏ですね、100歳以上の
の方々がいらっしやらなくなったとかというようないろんな報道が全国的に
なされましたけれども、そういったことなども含めてね、やはり本来日本
が持っていたコミュニティだとか、あるいは隣近所だとかですね、そうい
ったつき合いだとか、「絆」ということがですね、これからまちづくり、あ
るいは都市経営していく上においてね、大変重要なかぎを握っていると私
自身は考えています。それは、私だけではなくて、多くの方々もそれを感じ
ているんでしょう、1,710万件に及ぶキーワードですね、漢字の「絆」
で1,710万件です。それで、今回の平仮名、私はちなみに漢字の「絆」
という言葉を使っていますけれども、こっちは平仮名ですけども、平仮名
でやっても121万件ということですよ。ですから、それは私が使って
いるからどうのとかということよりは、むしろ普遍的な言葉であるという
ふうに私自身は理解をしていたつもりであるし、その検討委員会の方々も、
そういう思いでつくられてきたというふうなことだと私は理解をしていま
す。

- 産経新聞 議会にこんな言葉で何か対立軸をつくられたのは、割と心外であるとい
う思いでいらっしやると。
- 市 長 心外というか、先ほど申し上げましたように残念な思いがするとい
うことです。
- 産経新聞 予想はつかなかったですか、こういう事態になるということは。
- 市 長 電気自動車も「E K I Z U N A」という、これは英語で“K I Z U N
A”ですけども、そういったプロジェクト、フォーラム等々については、
もう昨年既に実施をしていますからね。また、報告書等などでも「絆」と
いう言葉は随分使わせていただいていますね。
- 産経新聞 ちょっと確かめたいんですが、昨日議会の討論の中で、その絆Tシャツ
だとか、市長のブログが見れなくなっているだとか、何かいろいろ出たと
思うんですけど、その辺をちょっと確認したいんですが。済みません、私
前回の選挙のときいなかったものでよくわからないんですが、絆Tシャツ
というのは使っていたんですか。
- 市 長 絆Tシャツ使っていました、漢字のね。
- 産経新聞 漢字の。

- 市長 はい。
- 産経新聞 それは、市長の応援団がそれをつくったと。
- 市長 そうです。
- 産経新聞 それで、ブログで売っていたというのは。
- 市長 ブログで売っていたわけではありませんけど、そういうのを売っていき
すよというご案内をしていたということですね。
- 産経新聞 ブログにそういう案内を。
- 市長 はい。
- 産経新聞 ブログは閉じたんですかね。
- 市長 ちょっと古いので。ただ、消去するには、過去のことが全然わかんなくな
ってもと思ったので、一応形としては残していますけども、古いものな
ので特に、はい。
- 産経新聞 それ、いつそうしたんですか。
- 市長 いつですかね。まだ1カ月ぐらい前の話ですね。
- 産経新聞 1カ月。
- 市長 これの問題が出てきたからじゃないですよ。
- 産経新聞 1カ月ぐらい前に。わかりました。
- 東京新聞 関連してなんですが、昨日の「きずなひろば」の関係のですね、決議は
2点問題があって、その名前の件は今伺ったとして、もう一つは、成立し
ていないものに関して例えばこういう啓発パンフレットなどが出てしまっ
ていると。もちろん名前もまだ決まっていないはずであるという上で、
これが出てしまっていると。たしか市民生活委員会とかで、嚴重注意を申
し入れるみたいな話になったようなんですが、市長としてその辺の措置に
ついては、例えばパンフレットを回収するとか、ホームページでも公開さ
れているのかな、ちょっと私も存じ上げないんですけど、その辺を止める
とか、もしくはシールを張っていくとか、そのような措置を何かとられま
すか。
- 市長 配布については、予算が成立後にね、配布をしていくということにさせ
ていただいていますけど。
- 東京新聞 じゃ、これは外に出ているものではないのですね。これが出てきている
のかというのがちょっとわからないんですけど。

- 事務局 済みません。昨日パンフレット類につきましては、各区のコミュニティ課に置いてあったんですが、回収をさせていただきまして、現時点では配布をしてございません。
- 産経新聞 何で回収したんですか。
- 事務局 昨日の決議があったということで、回収をさせていただきました。
- 東京新聞 ちょっと関連して伺いたいんですが、これ何費から出ているんですか。何のお金ですか、本年度予算の中のお金から出ているんでしょうか。
- 事務局 本年度予算でございます。当初から計上されてございます。
- 市 長 これを作ることまでは計上されてはいます、今年度予算の中で。それと、あとは市報の掲載についてね、2月号の市報の掲載についてご指摘がございましたけども、これは1月25日に市民生活委員長のほうに、一応2月号の市報に掲載をさせていただきたいという旨、担当のほうからご説明をさせていただき、また1月26日にもですね、議長のほうにこの旨お伝えをさせていただいたところでございます。ただ、議会を経てからこの事業をスタートしますという部分については記述をしていなかったの、その辺については、これは不備があったというふうに思っております。
- 東京新聞 あとですね、先ほど出ていた名前なんですけども、検討委員会、それ市民の方とかが入っていらっしゃる検討委員会なんでしょうか。
- 事務局 実際の名称は「スポーツもできる多目的広場管理運営に関する研究会」という名称でございまして、学識経験者ですとかNPO法人の代表者の方々にご参画いただきまして、市の職員も入ってございましたが、そういったメンバーで開催をさせていただいておりました。
- 東京新聞 市長がこれにしなさいと言ったわけではないということですね。
- 市 長 そうです。
- 東京新聞 仮に代えるとか、撤回するという場合の手続なんですけど、仮にですけどね。そうすると市長が、じゃ代えましょうと言うと代えられるものなのか、もしくは検討委から上がってきたものなので、尊重する、代えることはできないというものなのか。
- 市 長 その辺の精査がまだよくできていませんので、そういったことも含めて検討していくと。ただ、いずれにせよまだ予算が通っているわけではないので、今年度予算でパンフレットは作らせていただきましたけども、来年

度以降の事業の部分にもかかわってくる話だと思しますので、その辺は予算の状況が終わってからということになると思います。

○ 朝日新聞 では、どうもありがとうございました。以上で記者からの質問を終わらせていただきます。

○ 進 行 それでは、以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。
 なお、次回の開催は3月9日の水曜日、13時30分を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

午後2時09分閉会

この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後訂正された文言等については「会見後訂正」とし、下線を付しています。